

(本発表のお問い合わせ先)
生涯学習課
広報資料取扱主任: 前田 聡子
電話 087-839-2633

【市長定例記者会見】高松市合併20周年記念 2026年高松市二十歳のつどい テーマ「瞬(またたき)」

1 挙行日 令和8年1月11日(日)

2 場 所 サンポートホール高松(高松市サンポート2-1)
大ホール、第1・第2小ホール、国際会議場、展示場、54会議室
※式典は大ホールで挙行し、他会場へはその模様をスクリーンで同時中継します。

3 対象者 4, 085人(令和7年11月17日現在)
(市内住民登録者 3, 937人 市外申込者 148人)

4 出席見込者数 約2, 800人

5 二十歳のつどいテーマ 瞬(またたき)



2025年高松市二十歳のつどいの様子

6 式典内容
オープニングパフォーマンス、二十歳のランウェイ、高松市合併20周年記念プログラム、お祝いメッセージ
映像 等
※司会進行は二十歳のつどい運営スタッフが行います。

7 関連イベントについて

- (1) 高松オルネ前において、民間企業数社がお祝い品の配付等を実施します(官民共創推進事業関連)。
- (2) ライオン通商店街において、ライオン通商品券(先着300人)の配付やフォトスポットの設置を行います(高松市高松中央商店街伴走型支援事業関連)。
時間: 14:00-17:00
場所: 多目的交流施設「ライオン通 Smile's」(高松市御坊町2-1(ライオン通商店街内))
- (3) 当日、二十歳の方を対象に、玉藻公園を無料開放します。また、同公園内で高松城鉄砲隊による演武が行われます(隊員との写真撮影が可能です。)
時間: 15:00-15:30
場所: 玉藻公園 桜の馬場
- (4) 記念撮影スポット
玉藻公園桜御門前と高松駅前の2か所に設置する予定です。
- (5) アンケート回答者へのプレゼント
式典終了後、アンケートに回答いただいた方(先着50人)にプレゼントの配付を予定しています。

8 その他

- (1) 参加者の皆様へのお願い
会場周辺道路は、大変混雑が予想されます。できるだけ公共交通機関を利用し、時間に余裕をもってご来場ください。
- (2) 当日の受付方法について
総合受付において、スマートフォン画面(入場事前登録の完了を証明する画面)を提示してください。

9 協賛企業

美しいもの 糸しょう/株式会社いちのや/フォトスタジオ モナーージュ/株式会社ドローンショープラス

- 添付資料:
- ・高松市合併20周年記念 2026年高松市二十歳のつどい概要

高松市合併20周年記念 2026年高松市二十歳のつどい 概要

1 挙行日 令和8年1月11日（日）

2 場所 サポートホール高松 大ホール

中継会場

第1・2小ホール、54会議室、国際会議場、展示場

3 式典内容

(1) 対象者

約4,500人

（平成17年4月2日～平成18年4月1日生まれの方）

(2) 出席見込者数

約2,800人

(3) 式典次第（予定）

第1部	内容
12:15	開場・受付 （高松市PR動画・協賛企業の広告映像等上映等）
（開式）	
13:00	オープニングパフォーマンス （高校4校の応援部による合同パフォーマンス）
13:14	開式宣言
13:16	祝辞（高松市長、高松市議会議長）
13:27	二十歳のランウェイ （参加者がレッドカーペットの上で、夢や目標等を発表するもの）
13:35	高松市合併20周年記念プログラム （高校演劇部による公演）
13:42	お祝いメッセージ映像 （高校時代の恩師等）
14:00	閉式宣言
（閉式）	

※司会進行は、二十歳のつどい運営スタッフが行う。

(4) 二十歳のつどいテーマ

「^{またたき}瞬」

[テーマ解説文]

これまでの20年間は、振り返ればあっという間だったかもしれません。

そのすべてがかけがえのない時間です。

皆さんが積み重ねてきたその一瞬一瞬が、今を、そして明日を創っていくのです。

たくさんの縁を結び、思い出が詰まったこの街から未来へ羽ばたいていきましょう。

[テーマカラー] 空色

4 その他

- ・当日は、式典の模様を特設ウェブサイト上でオンライン配信により、中継する。
- ・式典終了後、YouTube「高松ムービーチャンネル」上でアーカイブ配信を行う（配信 URL を式典対象者及び関係者にのみ案内）。

(本発表のお問い合わせ先)
都市計画課
広報資料取扱主任: 石川 洋毅
電話 087-839-2455

【市長定例記者会見】「高松市中心市街地夜間景観ガイドライン」の運用開始について

本市では、中心市街地において、より一層、活力とにぎわいのある都市空間の形成を図るため、夜間においても高松らしい景観づくりを進めるため、「高松市美しいまちづくり・景観審議会」や市民の皆様からの御意見を伺いながら、先月、「高松市中心市街地夜間景観ガイドライン」を取りまとめました

このガイドラインは、市民・民間事業者・行政が、夜間景観の方向性や演出方法への理解を共有し、個々の計画や設計に適切に反映していただくことを目的とし、市民や観光客が楽しめる光のイベント等の促進につながることを期待するものです。

夜間景観形成の方向性としたしましては、サンポート高松、高松城跡、中央商店街、リニューアルを予定している中央公園など、中心市街地が持つ固有の資源を、場所に応じたライトアップで一層際立たせ、昼とは異なる演出を楽しんでいただける、高松らしい夜景のデザインを目指しています。

今後は、このガイドラインの内容を国・県・民間事業者の皆様と共有しながら、建築物や街路樹へのシンボリックな照明演出など、多彩な灯りによる魅力的な夜間景観の形成に取り組めます。

また、こうした取組みを専門的な視点から効果的に進めるため、先月に、照明デザイナー・長町志穂氏を、本市の夜間景観アドバイザーに委嘱したところであり、長町氏の知見もいかしながら、中心市街地における夜型観光の推進や新たなにぎわいを創出してまいります。

高松市中心市街地 夜間景観ガイドライン



T 多彩な^{あか}灯^りで

K ^{きら}煌めくみなとまちの

M 未来の夜景を

T 共につくっていく

令和7年11月

高松市 都市整備局 都市計画課

目次

第1章 はじめに	1
1 ガイドライン策定の背景と目的	1
2 ガイドラインの位置づけ	3
第2章 夜間景観を考える際の基本的事項	4
1 これからの夜間景観に求められること	4
2 光の質の向上	5
第3章 中心市街地の夜間照明の方向性・方針	8
1 中心市街地の夜間景観の方向性	8
2 中心市街地の夜間景観の方針	12
第4章 魅力的な光の在り方	19
1 空間ごとの特性を活かす照明手法等	19
2 魅力ある夜間景観のケーススタディ	27
3 魅力ある夜間景観づくりの進め方	36
参考資料	37

第1章 はじめに

1 ガイドライン策定の背景と目的

(1) 策定の背景

本市中心市街地は、ＪＲ高松駅や私鉄の琴電高松築港駅、高松港など、陸と海の交通機関が集まる、本市最大の交通結節点のサンポート高松や日本三大水城の高松城跡、更には、2.7キロメートルに及ぶアーケード街で全国有数の商店街など個性的な資源やエリアが集積しており、多くの市民や観光客が訪れ、また、経済の中心を担う地域でもあります。

中でも、サンポート高松は、四国の中核管理都市として、更なる飛躍・発展を遂げられるよう、新しい都市拠点の創造を目的に、官民一体となり、これまで、四国一の高さ151mを誇る「高松シンボルタワー」や、国際会議場、国の合同庁舎などが整備され、平成16年にグランドオープンしました。

このサンポート高松において、近年、新たな開発が次々と進められ、大きく変貌を遂げようとしており、令和6年3月にオープンした、新しいＪＲ高松駅ビル「TAKAMATSU ORNE（高松オルネ）」を皮切りに、7年2月に「香川県立アリーナ」が開館、4月には徳島文理大学の高松駅キャンパスが開校し、現在は、9年夏の開業を目指し、外資系高級ホテル（マンダリンオリエンタル瀬戸内・高松）の整備が進められています。

この本市の顔とも言えるサンポート高松を含めた中心市街地において、ウォーターフロントに位置する恵まれた環境を最大限に発揮し、より一層、活力とにぎわいある都市空間の形成を図るため、夜間においても、高松ならではの景観をつくり、魅力的なものとしていくための、市として目指すべき夜間景観の方向性を示すガイドラインを策定します。



(2) ガイドラインの目的

本ガイドラインは、本市が目指す夜間景観のあり方を示し、景観形成に関わる様々な主体が一体となって高松らしい魅力的な夜間景観形成を進めていくための指針です。

市民・民間事業者・行政それぞれが、夜間景観形成の方向性や演出方法等に対する理解を深め、個別の計画や設計に適切に反映するとともに市民や観光客が楽しむことのできる光のイベント等が一層促進されることにより、中心市街地の夜間景観をより魅力的にしていくために策定するものです。



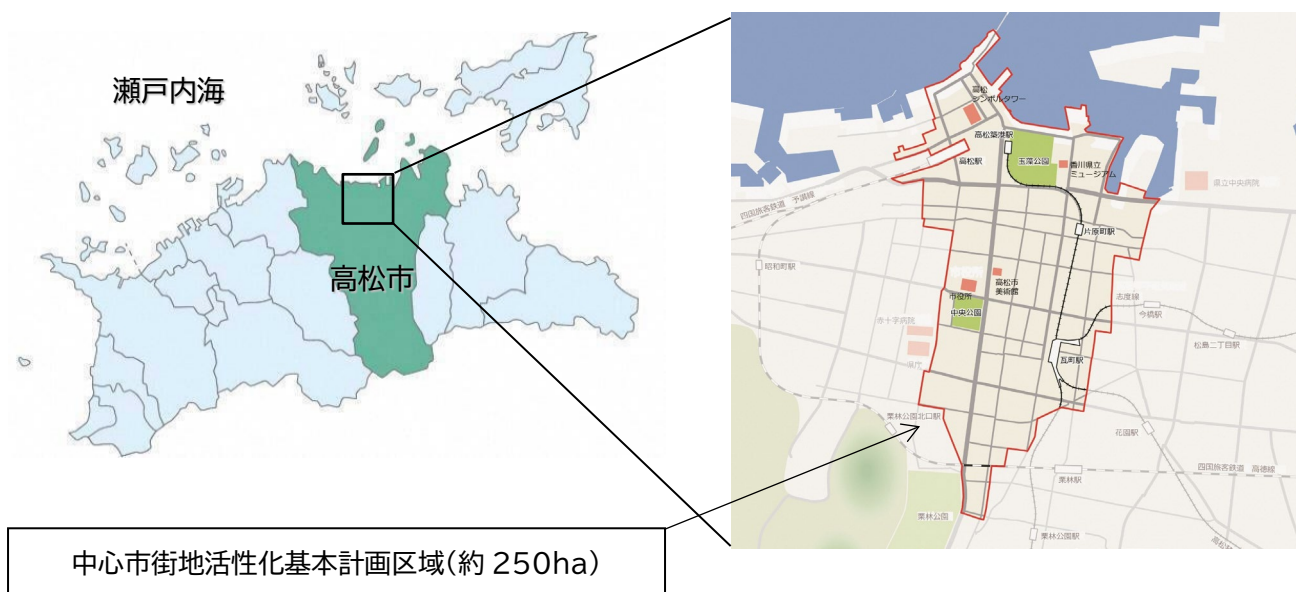
本ガイドラインの活用により、高松市における経済活性化やナイトタイムエコノミーの取組みがより一層推進されることを期待しています。

また、本市では、脱炭素社会の形成に向けても積極的に取り組むこととしており、ライトアップに要する電力使用について、再生可能エネルギーの活用など、省エネルギー化対策を推進します。

(3) ガイドラインの対象範囲

本ガイドラインは、公共施設、民間施設の別に関わらず、中心市街地を対象範囲とします。

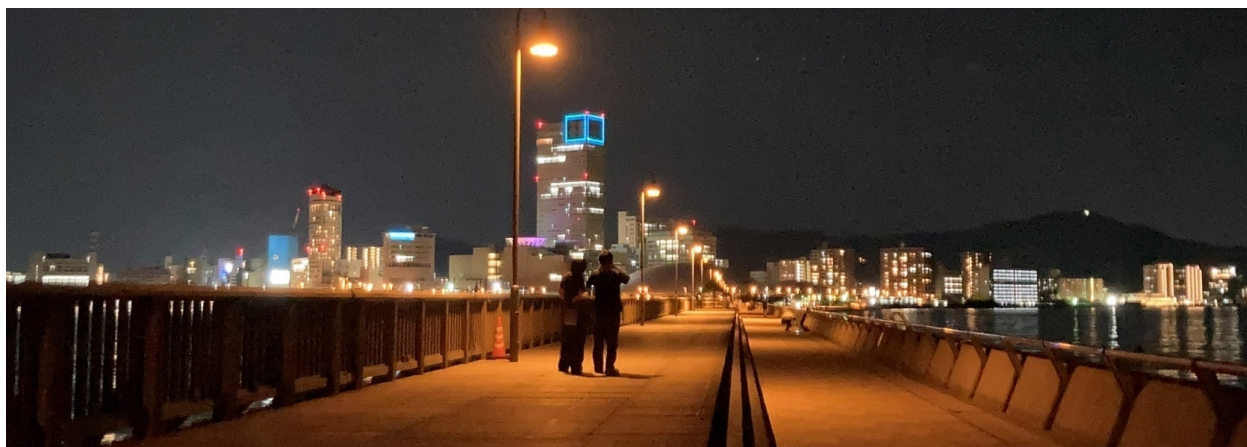
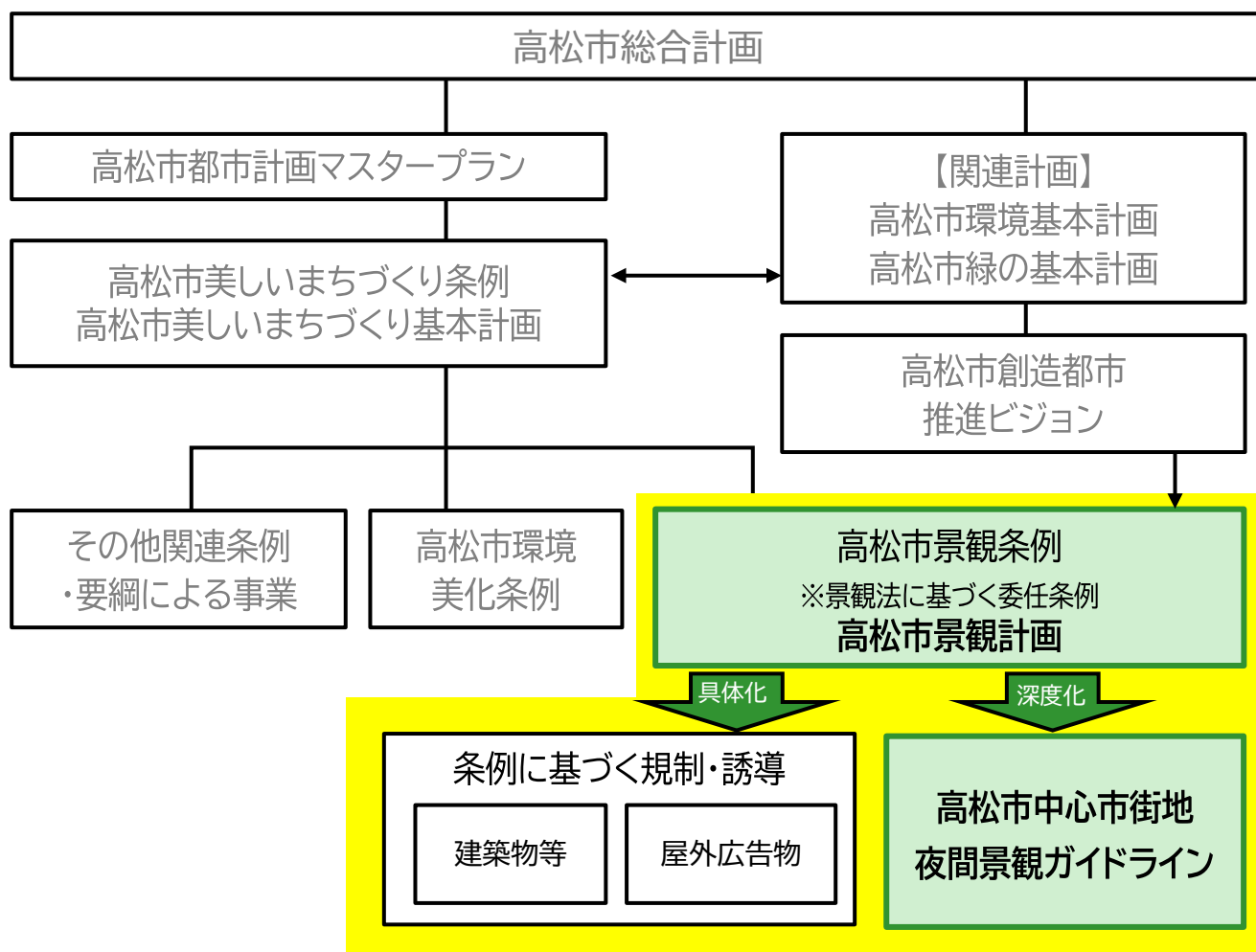
また、中心市街地以外の地域においても、必要に応じて本ガイドラインの考え方や演出方法等を活用・展開していくことで、魅力的な夜間景観の形成に寄与することを期待しています。



2 ガイドラインの位置づけ

「高松市美しいまちづくり基本計画」に定める目標像「だれもが暮らしたい、訪れたいと感じる美しいまち高松」の実現に向け、また、「高松市景観計画」の目標の一つである「海に拓かれた活力と気品のあるまち」を目指すこととしており、更に、「高松市創造都市ビジョン」に掲げる独創指向、世界指向、未来指向の視点を大切にしながら、夜間景観の形成を行うものとしています。

本ガイドラインは、中心市街地において高松らしい魅力ある夜間景観を形成するための方向性やポイントを示したものであり、上位計画や関連計画、各種関連施策などと連携を図りながら運用を行うこととします。



第2章 中心市街地における夜間景観を考える際の基本的事項

中心市街地における夜間景観を考える際のベースとなる事項をまとめています。

まず、「1. これからの夜間景観に求められること」では、照明の使われ方が、単に視認することを可能とする道具から感覚的に使われる要素が重要となっていることを整理しました。

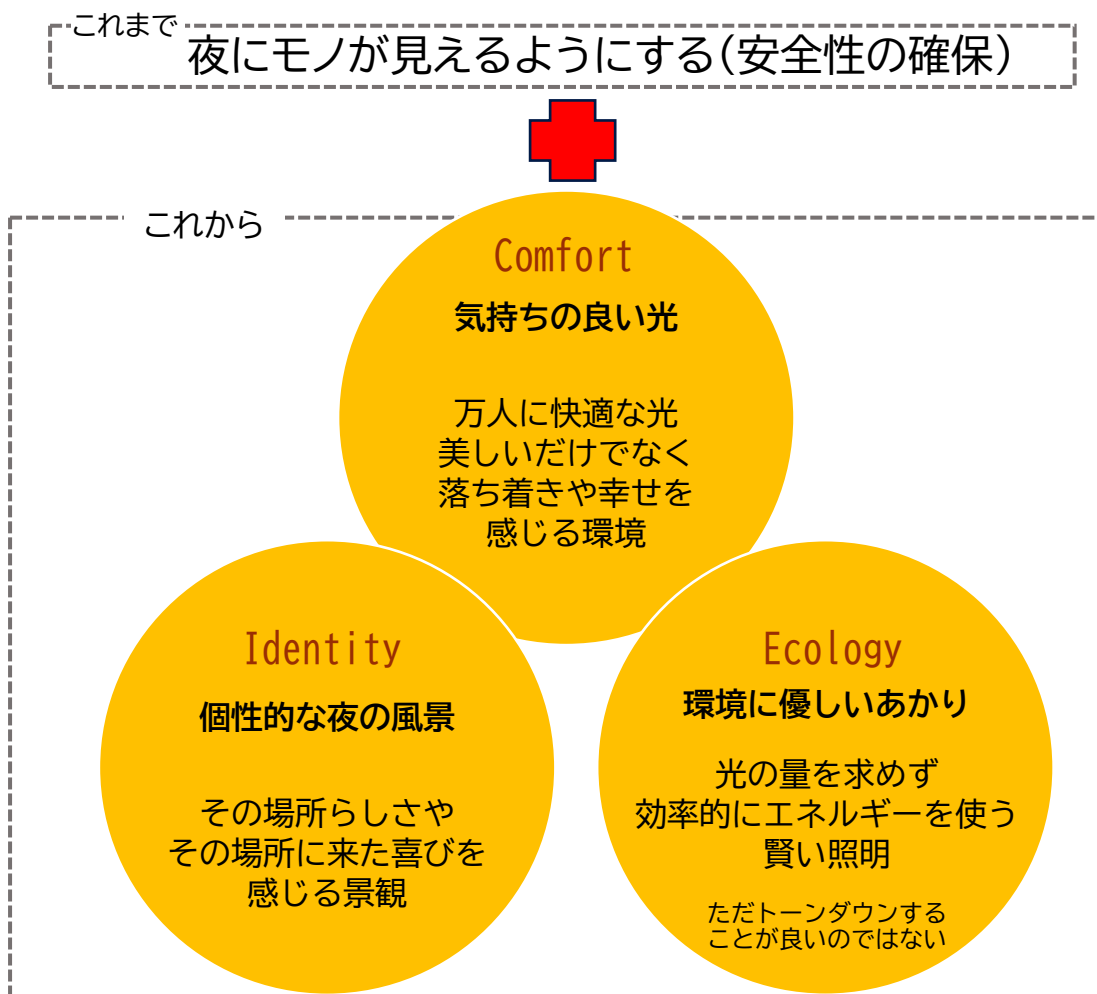
また、「2. 光の質の向上」では、光の特性を把握した上で、その質の向上方法をまとめました。

この2つの基本的事項を踏まえ、夜間景観の方向性・方針を検討することとしました。

1 これからの夜間景観に求められること

近年まで照明は、「物を明るくし見えるようにする」ために使用されることが一般的でしたが、現在では、「快適さをつくる」「場所の個性を担う」「環境にやさしいまちを作る」といった役割も持つようになっており、これからの夜間景観には、「気持ちの良い光」「個性的な夜の風景」「環境に優しいあかり」といった要素が求められています。

これら要素を兼ね備えた良好な夜間景観を形成することにより、本市に訪れる人、住む場所として選択する人が増え、それが店舗や事業を惹きつけば、エリアとしての魅力の向上につながるとものと考えます。



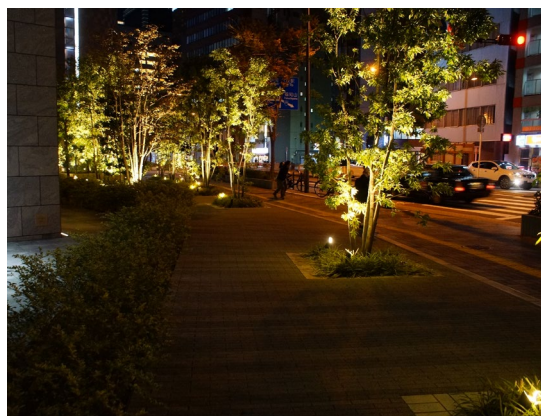
2 光の質の向上

(1) 鉛直面の光

- ・ 建築物の壁面や樹木等にあたる鉛直面の光は、足元等付近の床面を照らした光と比較して、ひとの視線に入りやすい光であるため、空間に明るさ感を与えるために効果的な光です。
- ・ 鉛直面の輝度を高めることで、少ないエネルギーで効果的に明るいと感じられる空間をつくることができます。



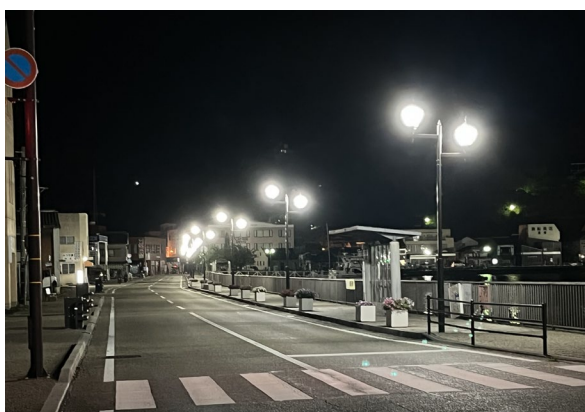
ショーウィンドや店内の光が通路を柔らかく照らしている（枚方市）



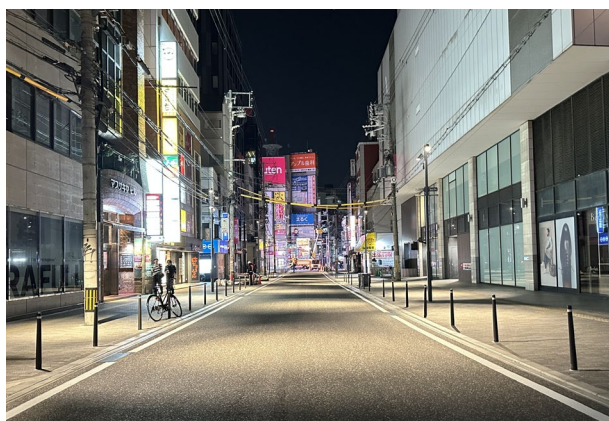
樹木にライトアップして立体的な光を通路に沿って連続的に見せている（大阪市）

(2) 不快なまぶしい光（グレア）の抑制

- ・ 光源や反射光が視界に入り周囲が見えにくく、不快に感じる不要なまぶしさを抑えることです。照明光源のグレアを抑えることで、人に優しく美しい、快適な夜間の照明環境をつくることができます。



グレアが大きな照明の例
光源が全方向に拡散すると、まぶしく不快に感じる（平戸市）



グレアが少ない照明の例
フードや遮光板など用いて光の向きを制御し不快なグレアを少なくします（大阪市）

(3) 適切な色温度

- ・光源の光色を表す単位はケルビン (K)。数値が小さい（色温度が低い）ほど、赤みを帯びた光、数値が大きい（色温度が高い）ほど、白色～青みを帯びた光です。
- ・地域の特性や周囲の環境に応じた色温度を検討することが重要です。
- ・一般的には、色温度の低い光には落ち着いた雰囲気を感じ、心身をリラックス状態に導く一方で、色温度の高い光は明るく快活なイメージがあり、心身を興奮させる作用があるとされています。



(宮津市)



(甲府市)

1,000K 2,000K 3,000K 5,000K 6,000K 7,000K 10,000K

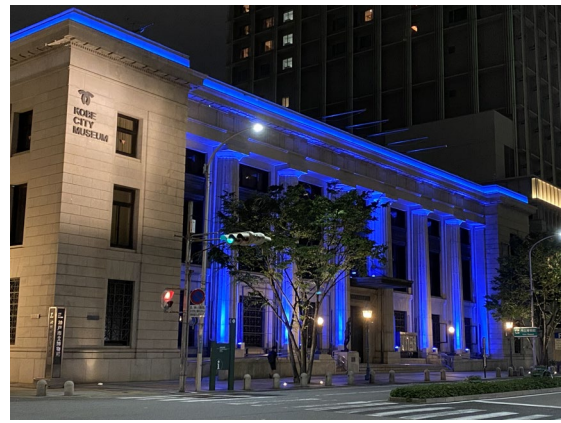
本市では、暖かみの感じられる低い色温度
2500～2800K の器具の使用を推奨しています。

(4) 光のオペレーション

- ・四季の変化やイベント時に応じて、光の明るさや色味など、照明方法を変更することにより、一層の魅力の創出が可能となります。
- ・夕暮れや深夜などの時間の变化に応じて、ふさわしい光になるよう調光することで、省エネルギーに貢献することも可能となります。



通常時は電球色でライトアップ
(神戸市立博物館)



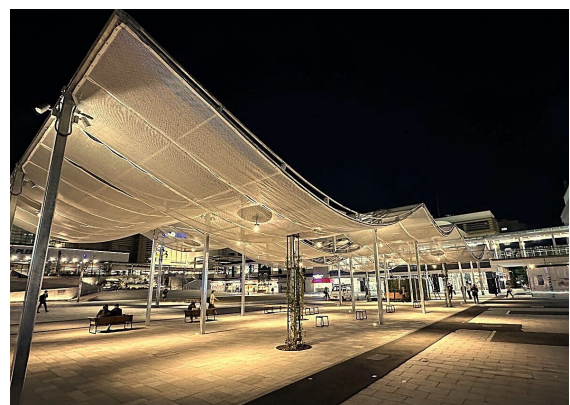
イベント時はテーマ等に応じたカラーライトアップ

(5) 適度な陰影

- ・ 適所適光の考え方に基づき、光と影を効果的に使ったメリハリのある演出により、陰影に富んだ、印象に残る夜間景観の創出が可能となります。全体を均一に照らすのではなく、光と影を対比的に生み出すことで、立体感のある印象的な景観となります。



外壁の間接照明や樹木ライトアップ等により明るさや陰影に変化をつけている例
(東京都中野区)



大きな広場でも、工作物やスポットライトポール照明などを使用すれば、陰影のある明るさ感を獲得することが可能(神戸市)

(6) 周辺環境への配慮

- ・ 立地状況等を踏まえ、照度を抑えたり、深夜の時間帯では演出を避けるなど、周辺への配慮が必要となります。

第3章 中心市街地の夜間景観の方向性・方針

1 中心市街地の夜間景観の方向性

中心市街地の夜間景観の方向性



T：多彩な^{あか}灯りで
K：^{きら}煌めくみなとまちの
M：未来の夜景を
T：共につくっていく

本市では、「高松市シティプロモーション推進ビジョン」において、当ビジョンの理念を具現化し、みんなで楽しみながら高松の魅力を発信できる仕組みとして、「TKMT」のフレームを考案しており、これを使って中心市街地の夜間景観の方向性を表現

本市は、瀬戸内海に面した穏やかな風景や、歴史的建造物、自然の美しさが魅力の都市です。これらを夜間景観に活かすことで、独自のアイデンティティをさらに強化し、観光資源としても発展させることが可能となります。

高松らしい夜間景観をつくっていくためには、瀬戸内の穏やかな美しさ、歴史・文化の深み、そして自然との共生が核となります。控えめで洗練された光の演出を通じて、訪れる人々がリラックスできる空間と、本市への親密さを感じられる環境を作り出すことが重要です。また、地域の人々とのコラボレーションを進めることで、本市の魅力をより広く発信していくことが可能となります。

これらを踏まえ、瀬戸内のスケール感を活かし、次に示す3つの方向性により、市民・事業者共々、みなとまち・高松の夜間景観をつくっていきます。

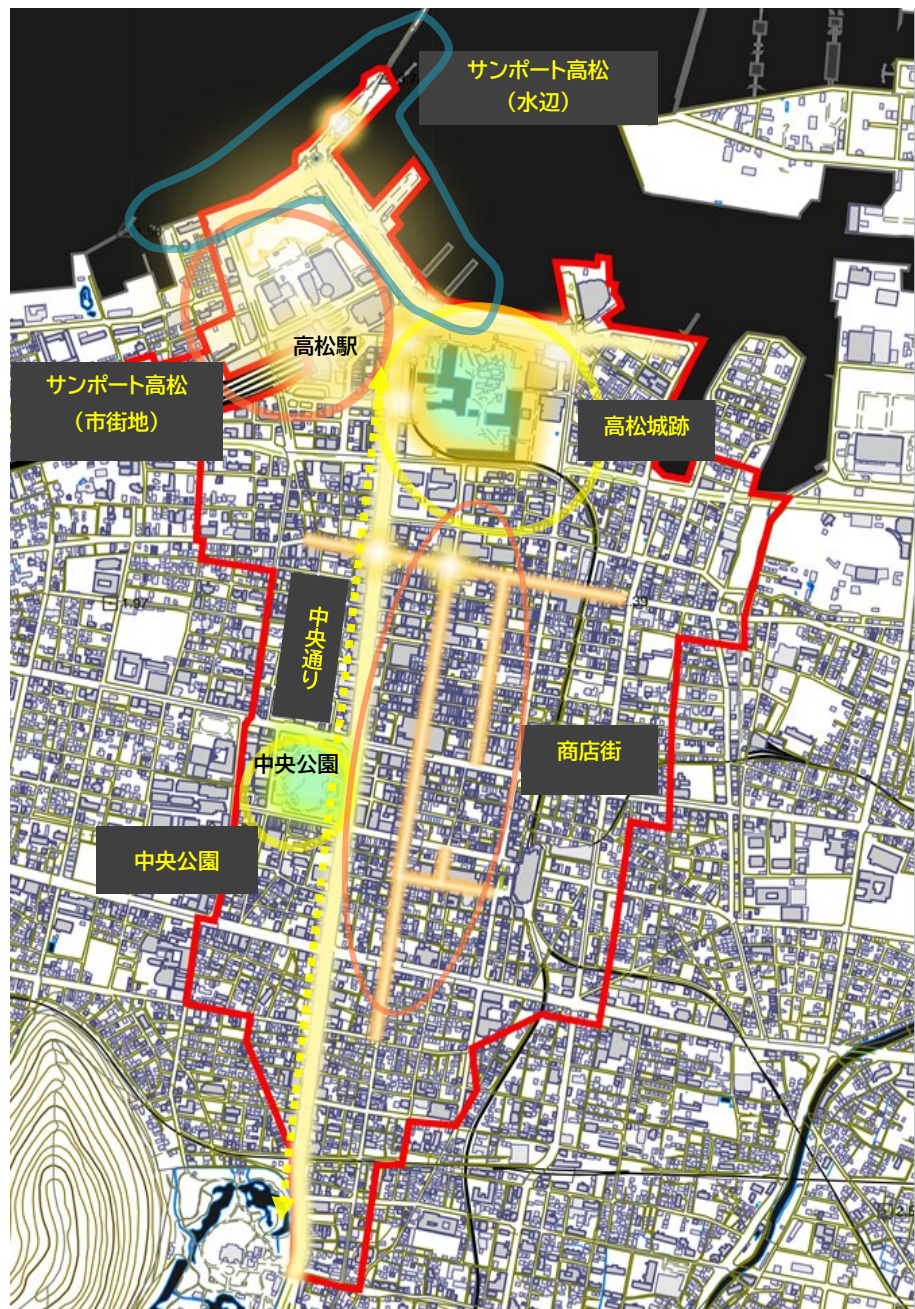


〈方向性①〉高松ならではの独創的で魅力的な光をつくる

本市中心市街地は、本市最大の交通結節点の「サンポート高松（水辺・市街地）」、日本三大水城の1つで、海城としても知られる高松城の面影を残す「高松城跡」、2.7キロメートルに及ぶアーケード街で、丸亀町商店街を中心とした8つの商店街からなる全国有数の「商店街」、中心市街地を南北に貫く本市のメインストリートで、中央分離帯には、本市のシンボルとなっているクスノキが植えられている「中央通り」、多くの市民や観光客の憩いの場となっている「中央公園」など、徒歩でも移動可能な範囲に個性的な資源やエリアが集積するコンパクトで多彩なまちで、多くの市民や観光客が訪れています。

これら6つのエリアは、本市の夜間景観を形成していく上で、特に、重要となるものであり、それぞれのエリアが持つ特色に合わせて夜間景観の演出を行い、エリアの特徴を際立たせます。

また、徒歩圏内に集積する魅力的なスポットをつなぐ、回遊ルートの光もしっかりとつくります。



〈方向性②〉市民も観光客も、世界レベルのナイトライフを楽しめるエリアを育む

高松市中心市街地の個性を最大限に活かし、多彩な文化、歴史、自然を融合させることで、市民にも観光客にも満足してもらえる「世界レベルのナイトライフ」を育みます。

特に、非日常のアクティビティを体験できる、香川県立アリーナや高松城跡でのイベント時などにおいて、多様な人が思い思いに、非日常を味わえる夜間景観をつくります。



香川県立アリーナ プロジェクションマッピング



高松城跡 桜御門 プロジェクションマッピング

〈方向性③〉民間事業者と行政などが連携し、未来に向かって夜景を育み続ける

未来に向けて持続的な夜景づくりを実現するために、官民が一体となって目標を共有し、共に歩む仕組みを構築します。

特に、公共空間と民間建築物等が一体となってエリアを形成している空間では、それぞれ光の魅力に磨きをかけ、夜にも訪れたくなる中心市街地を、共につくっていきます。



J R 高松駅前広場周辺の民間建築物



丸亀町商店街 クリスタルドーム南

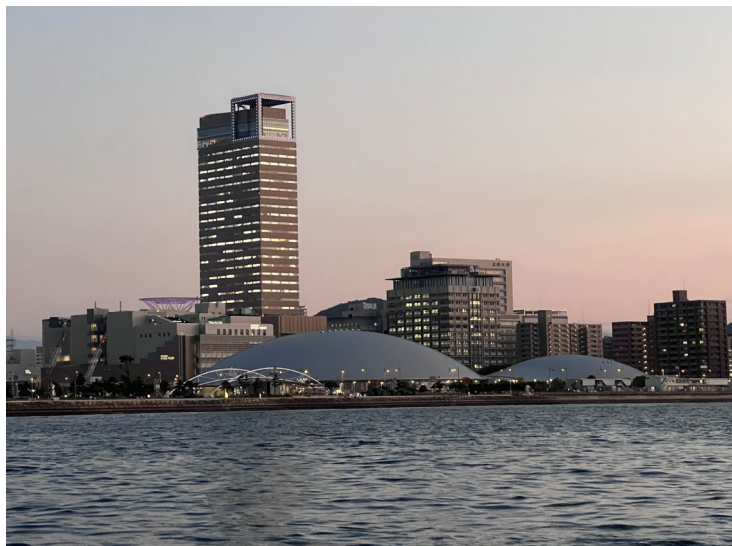
2 中心市街地の夜間景観の方針

「1 中心市街地の夜間景観の方向性」で整理した6つの主要なエリアでは、特徴的な景観が形成されています。これらの特徴を活かし、さらに夜間景観に磨きをかけていくため、エリアごとに具体的な光の方針をとりまとめました。

① サンポート高松（水辺）

【エリアの特徴】

瀬戸内海を臨む本市を代表するウォーターフロントエリアとして、自然環境と都市的土地利用が調和した、みなとまちとしての独特の景観を持っています。



【夜間景観の方針】

夕暮れ、トワイライトから夜にかけて、淡く変化していく空と海を見ながらゆったりと特別な時間を過ごすことができる海辺で、海面に映る陰影の利いたまちの光がアクセントとして添えられるような、きらめく水辺の夜間景観の形成を目指します。

【光の方針】

- ・フェリーなどの海上や遠方から望める、ビル群の光のスカイラインを形成します。
- ・魅力的なシンボルとなるように、港らしい施設を照らします。
- ・施設のライトアップや低位置の光により陰影をつくります。
- ・水際の施設を照らすことで、水面に映り込む光をつくります。





コリドーと瀬戸内国際芸術祭作品



せとしるべ



せとしるべに繋がる歩行空間（玉藻防波堤）

② サポート高松（市街地）

【エリアの特徴】

J R高松駅や高松港を中心に、瀬戸内海の名所としての要素を持ちながら、アクセス性や機能性を備えた都市的な景観を形成する世界都市・高松の顔となるエリアです。

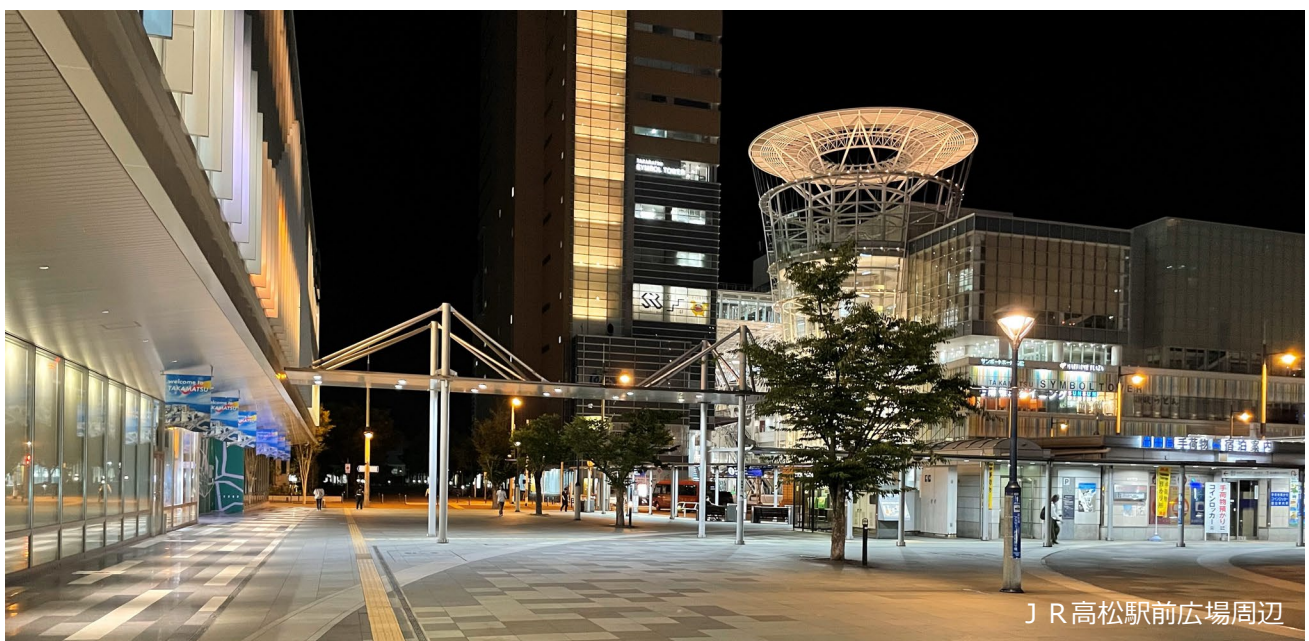


【夜間景観の方針】

市街地とアリーナ・港を行き来する人、シンボルタワーなどの夜景を楽しむ人などが、ライトアップされたビルや木々などの都会的な演出を楽しみ、華やかな夜間景観の形成を目指します。

【光の方針】

- ・建物の低層階はファサードや看板を華やかに照らし、回遊を促す光をつくります。
- ・公共施設なども含め、閉館した後も内部からの光が漏れ出るようにし、温かい表情を演出します。
- ・人々が集まる広場には、陰影のある明るさを創出します。



③ 高松城跡

【エリアの特徴】

かつて海に突き出たように築城された「海城」としても知られる歴史的な名所で、その景観は主に日本の城郭、瀬戸内海の自然、現代都市との調和による特徴が際立つ日本三大水城の1つです。



【夜間景観の方針】

海城の石垣や樹木をはじめとする固有な資源を、シンボリックに照らし、歴史文化の核として風格と威厳が感じられる夜間景観の形成を目指します。

【光の方針】

- ・石垣や、公園の外側から見える樹木を、風格を感じさせる光で浮かび上がらせます。
- ・鞘橋や門、北側の櫓などを、威厳を感じさせる光でライトアップします。



高松城跡 月見櫓

④ 中央通り

【エリアの特徴】

市域の中央を南北に貫く本市のメインストリートであり、中央分離帯に植えられているクスノキは、都市景観の形成に大きな役割を果たしています。

【夜間景観の方針】

主要なエリアをつなぐメインルートとして、市民にとって大切なクスノキなどの街路樹のライトアップにより、大通りに沿って真直ぐの、光を連れ、沿道の建物の光とあいまって、人を快適に導く夜間景観の形成を目指します。

【光の方針】

- ・クスノキなどの街路樹を照らし、鉛直面の明るさ感につながる連続的な光をつくります。
- ・沿道の建物からの漏れ光や壁面の照明などにより、歩道空間を照らします。



⑤ 商店街

【エリアの特徴】

8つの商店街で構成される、全長2.7キロメートルに及ぶ全国有数のアーケード街で、中でも、丸亀町商店街では、再開発が進んでおり、都市型商業空間として市民の日常生活を支えつつ、ショッピングや飲食、観光を楽しむ場として、賑わいを見せています。

【夜間景観の方針】

商店が集積するにぎやかな界隈では、買い物や飲食の楽しさに加えて、夜には店舗ごとの工夫が凝らされた光の演出が上乘せされることにより、ナイトライフが楽しめるにぎやかな夜間景観の形成を目指します。

【光の方針】

- ・商店街の空間は、アーケード屋根への間接照明によって目に見える明るさ感を創出すると共に、下方向への照明を最適化することで店舗の光を引き立てます。

- ・商店街の店舗からの漏れ光や看板照明によりにぎわいを演出し、また閉店後や休業日でも夜間は照明をつけたままにし、にぎわいの光が途切れないように配慮します。

- ・ベンチなど滞留のための空間は、心地よい陰影のある光をつくりま



⑥ 中央公園

【エリアの特徴】

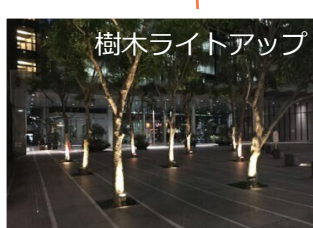
中心市街地に位置する面積約3.4ヘクタールの、本市を代表する都市公園であり、周辺には、商店街、県庁・市役所などがあります。年間を通じて、数々のイベントが行われており、市民はもとより、観光客にとっても憩いの場として親しまれています。

【夜間景観の方針】

当該公園の再整備に当たり、光によって浮かび上がる木々とその影が魅力的な陰影をつくりだすことで、夜の散歩を楽しみ、安心してくつろげる、心地よい落ち着いた夜間景観の形成を目指します。

【光の方針】

- ・安全に散歩できるように、園路に沿って足元を照らします。
- ・木々のライトアップにより、鉛直面の明るさ感を創出し、心地よさと安心感を創出します。
- ・居心地よい空間を演出するため、柔らかい光をつくります。
- ・滞留する広場などには、陰影のある明るさ感を創出するため、ポールスポットライトなどで照らします。



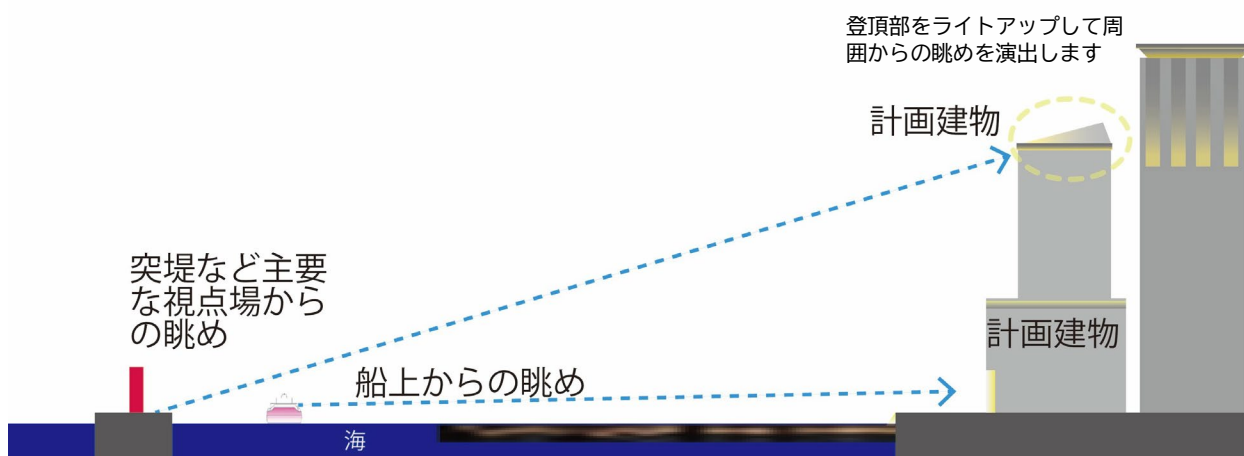
第4章 魅力的な光の在り方

1 空間ごとの特性を活かす照明手法等

(1) 水辺の光

① 水辺付近の建築物の光

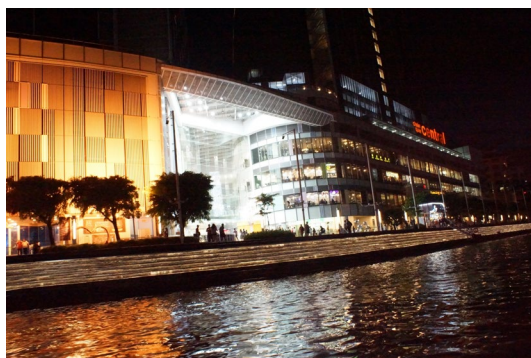
・水辺付近やサンポートの高層建築物は、水辺部への映り込みに配慮するため、建築物の存在感を演出する頭頂部のライトアップや水際低層部をライトアップしましょう。



港湾施設や船着き場が魅力的な夜景となっている事例（シドニー）



水辺付近での頭頂部のライトアップ事例（大阪市）



水辺の低層部付近のライトアップ事例（シンガポール）



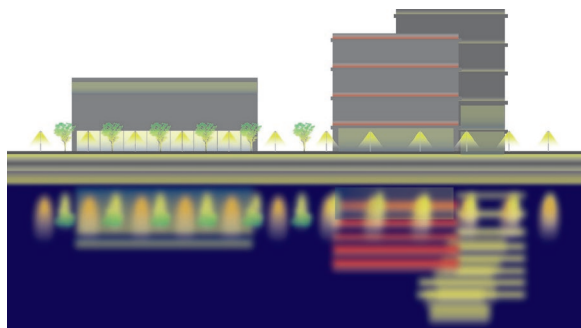
高層ビルを背景に水際の建物演出で水辺の魅力を高めた事例（シンガポール）

② 水際の広場や通路の光

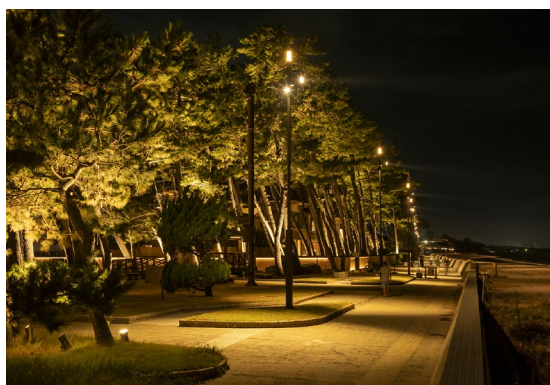
- ・鉛直面の光が水面に映り込み、水際の雰囲気演出するため、水際の建築物は低層部付近のファサードをライトアップしましょう。
- ・海上や波止場からの眺め意識した水辺らしさを演出するため、護岸や手すり等の工作物をライトアップしましょう。



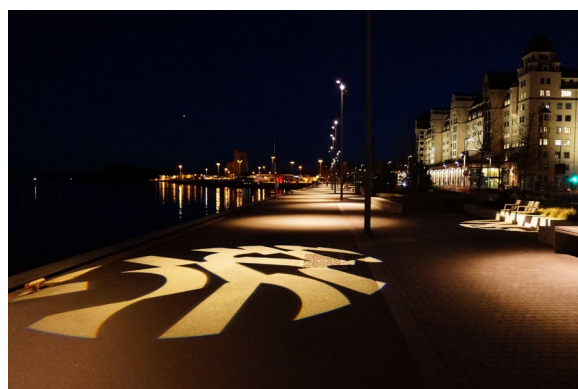
水際の手すりや護岸、樹木をライトアップし、建物付近のもれ光を見せることで夜間の水辺を演出します



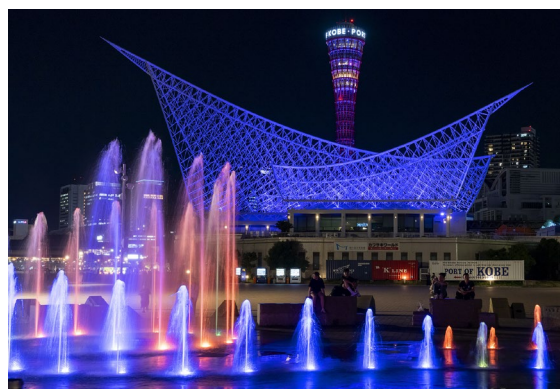
水際の水面は光が映り込むことにより、反射する光を美しく輝かせる効果を持っています。みなとまちならではの魅力を活かすために、水際に光を連続的に配置して印象的な美しい映り込みを演出しましょう



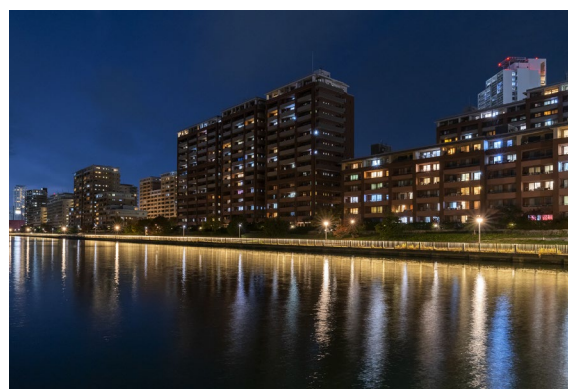
並木のライトアップによって、海辺のプロムナードの心地よさを高めた事例（米子市）



路面の明るさをデザインしている事例（オスロ）



広場噴水の水柱をライトアップして、動きのある光の演出をします（神戸市）



デッキ間接照明と樹木のライトアップを組み合わせた広場改修の事例（神戸市）

(2) にぎわいの光

① 建築物の光

- ・建築物の店舗などでは、夜間の人通りに留意し、通りや通路に面して光が漏れるようにしましょう。閉店後も夜間は照明を残し、光が途切れないようにしましょう。
- ・低層部の漏れ出る光や低層部のファサードライトアップは、隣接する建物と連続するように照明器具を配置しましょう。



低層部のライトアップやもれ光を連続させて通りのにぎわいをつなげる



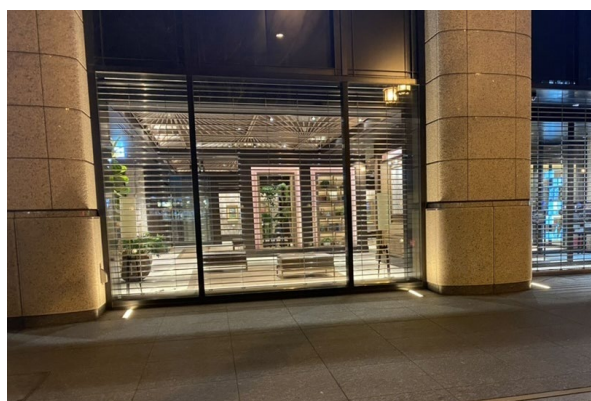
沿道の低層ファサードを暖色系の光で繋げている例（神戸市）



建物ファサードの凹凸のある意匠を効果的な間接光で演出している例（大阪市）



店舗のもれ光で前面の歩行空間を照らしている事例（大阪市）



パイプシャッターにして閉店後も中の光が見えるようにしている事例（大阪市）

② 歩行空間の光

- ・歩行空間の照明は、上方に光が拡散しないようにし、足元に光が届くように快適な歩行空間を演出しましょう。
- ・歩行空間付近のベンチなどの休憩施設やモニュメントは、視認性を向上させるとともに、連続的にライトアップすることで、動線を強調することができます。
- ・アーケードのある商店街では、アーケードを照らすことによる間接光により、柔らかく街なみを照らし、店舗の賑わいが映えるようにしましょう。



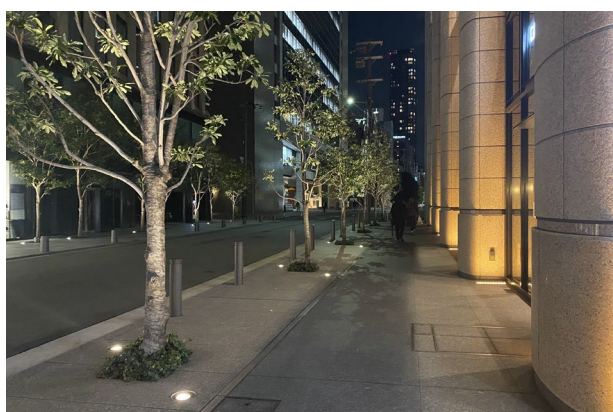
歩行空間を柔らかく照らす照明や沿道建物からの漏れ光を活かす



歩道空間のライティング例（神戸市）



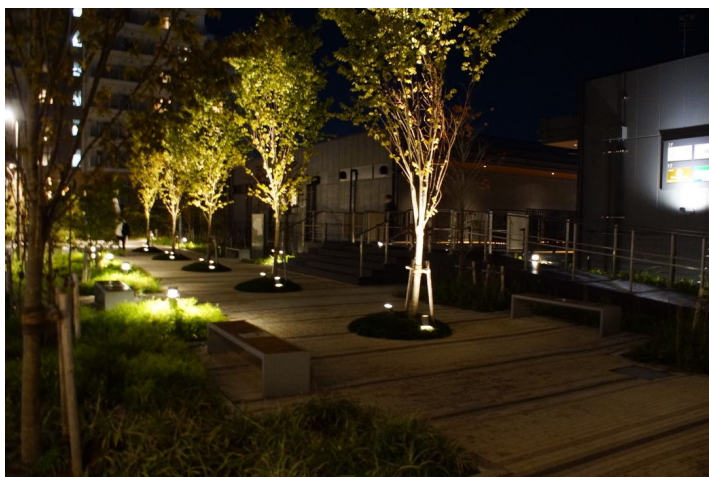
モニュメントのライトアップ（神戸市）



街路樹のライトアップ（大阪市）

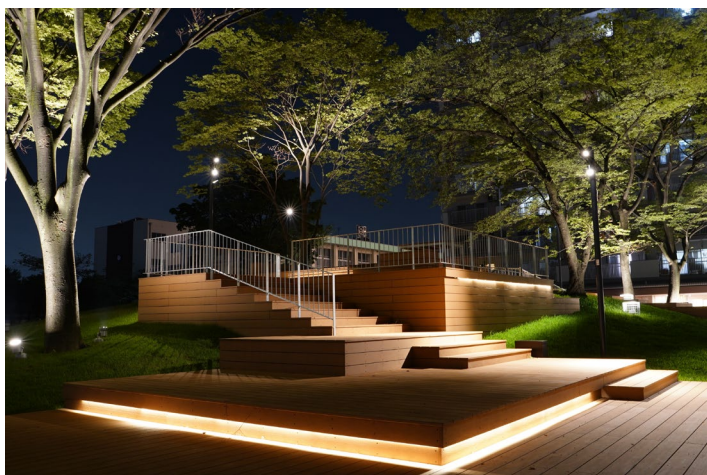
③ 植栽空間の光

- ・街路樹や通路沿いの高木植栽を連続的にライトアップすることで、夜間でもまちなかの緑を感じられるものにするとともに、動線の方向性や視線を誘導する演出をしましょう。
- ・樹種や樹形を活かしたライトアップを行うことにより、通りや場所の個性を演出しましょう。
- ・低木や地被植栽の植栽地をライトアップし、足元灯も配置する等、足元の緑を美しく見せるようにしましょう。



樹木の連続的なライトアップにより、
通路の誘目効果を高めている例
(吹田市)

低木や地被植栽等の豊かな緑を美しくラ
イトアップしている例 (神戸市)



通路沿いの植栽地と休憩施設を一体的に
ライトアップしている例
(名古屋市)

④ 広告物等の光

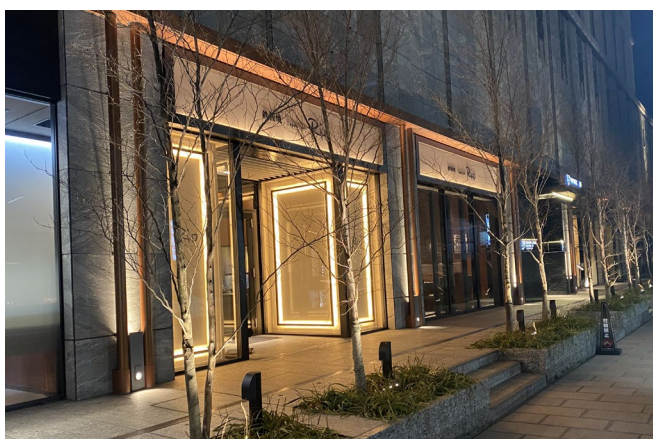
- ・ 広告物等の照明は、内照式照明はできるだけ避け、切り文字型（箱文字）のバックライトや文字のみの発光とするなど、上質な印象の照明としましょう。
- ・ デジタルサイネージは高彩度色彩や動きの速い映像を大面積で用いないようにし、周辺の夜間景観を阻害しないようにしましょう。



高層階に設けた箱文字のライティング例
（高松市）



エントランス付近の箱文字のライティング例
（神戸市）



店舗の広告物を間接照明で照らしている例
（大阪市）



歩道上に設置された適切な規模のデジタルサイネージの例
（大阪市）

(3) シンボルの光

① 城など歴史的資源の光

- ・建築物などでは、夜間の人通りに留意し、通りや通路に面して光が漏れるようにしましょう。
- ・石垣へのライトアップとともに、石垣上部の植栽などのライトアップを図り、シンボリックな光を演出しましょう。

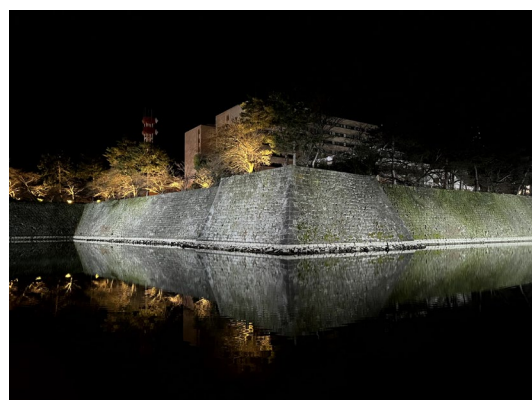


石垣のライトアップ例（鳥取城）

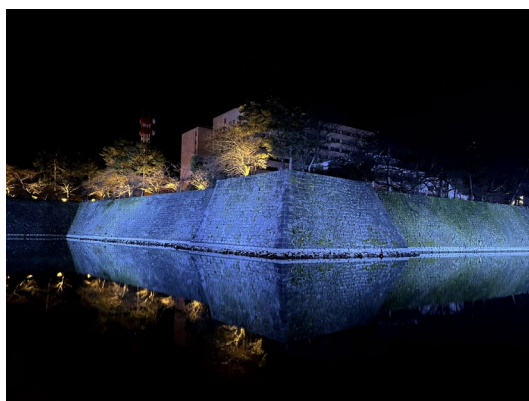
イベントや催事にライトの色彩を変更するあかりのオペレーション演出例
(福井城ライトアップ年間プログラム)



通常（電球色）



通常（笏谷石苔色）



イベントカラー例（ブルーライトアップ（淡水色））

② 都市公園の光

- ・ 中心市街地の公園として、夜間に人が訪れても休息できる場所と夜間照明を配置しましょう。
- ・ 夜間動線や施設付近の樹木やベンチなどファニーチャー下のライトアップを行いましょう。



公園内のカフェの電球色のライトアップ
(東京都豊洲)



樹木を活かした園路演出 (神戸市)



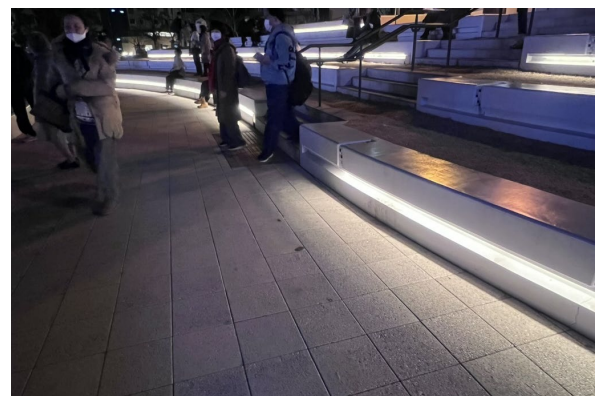
公園外通路付近のベンチ周りのライトアップ
(東京都豊洲)



滞留スペースの明るさ感の創出
(ストックホルム)



施設に付帯する図書施設のライトアップ
(神戸市)

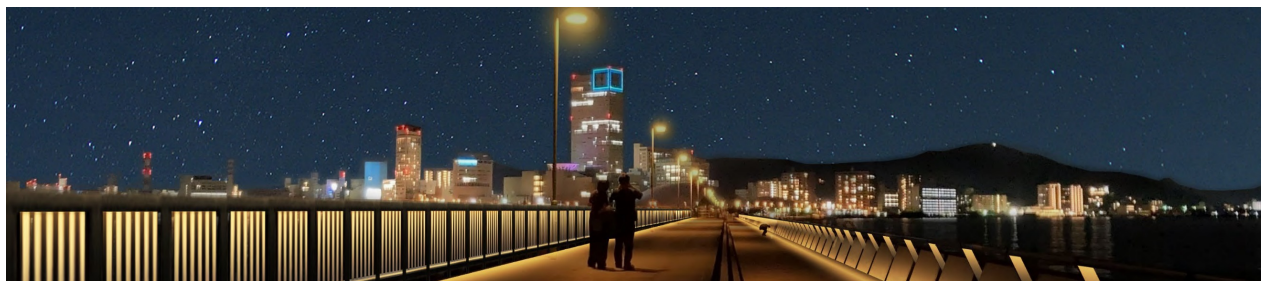


夜間でも気軽に休憩できるベンチ周りライトアップ (神戸市)

2 魅力ある夜間景観のケーススタディ

ここでは、主要なエリアのうち、サンポート高松（防波堤・市街地）、高松城跡及び中央通りの一景において、昼と夜の現状写真とともに、ライトアップ手法の一例として、夜間照明を整備した時にどのように見えるのかを、ケーススタディとして作成しました。

今後、このケーススタディをブラッシュアップし、ライトアップ事業に繋がればと考えています。



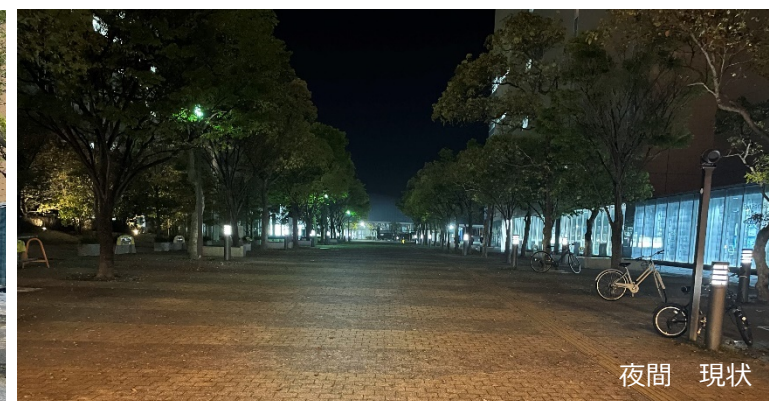
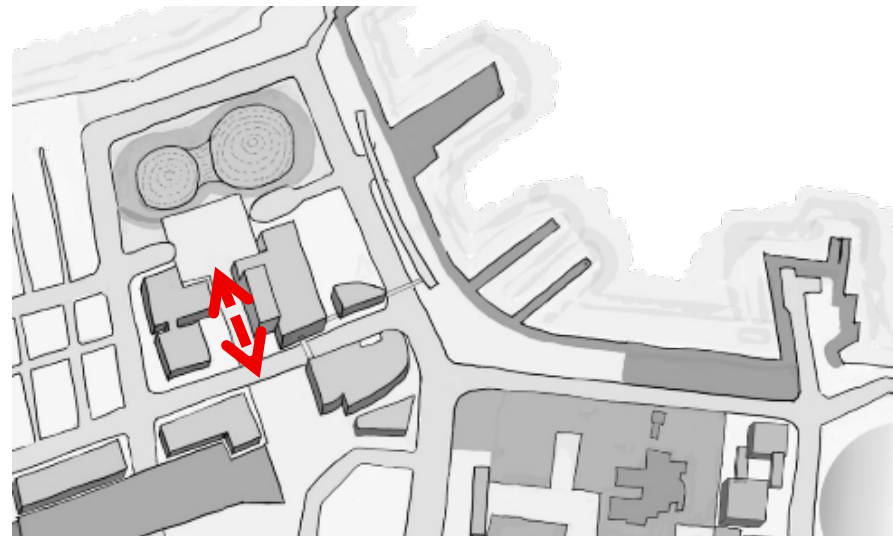
サポート高松（市道 港頭中央1号線）

この通りは、市街地とアリーナ・港を行き来するメイン歩行者導線です。
夜間においても、陰影のある落ち着いた光で、親しみやすい光環境としています。

また、特定の日に於いて、スペシャルカラーのライトアップにより、一層の
魅力の創出が可能となります。

<照明デザインのポイント>

- ・街路樹の連続的なライトアップにより、夜間でも緑が感じられ、視覚的な明るさ感も確保
- ・全体を均一に照らすのではなく、光と影を対比的に生み出し、立体感ある景観を演出
- ・ベンチ下など足元を照らす重心の低い光により、佇みの空間を演出



◆特別日のイメージ【スペシャルカラーでのライトアップ】



自閉症啓発デー・世界糖尿病デーなど



移植医療デー など



ピンクリボンデーなど



こども虐待防止キャンペーンデー など

中央通り（クスノキ・高松城跡西側ライトアップイメージ）

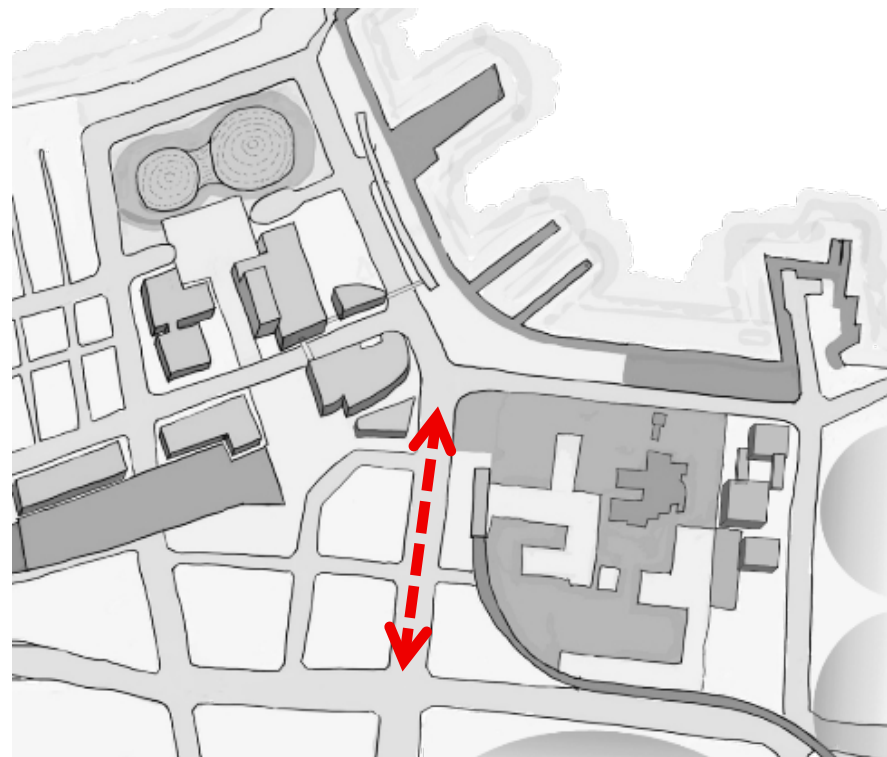
この通りは、中央分離帯にクスノキを構える、本市のメインストリートです。

主要なエリアをつなぐメインルートとして、市民にとって大切なクスノキなどの街路樹のライトアップにより、大通りに沿って真直ぐの、光を連ね、沿道の建物の光とあいまって、人を快適に導く夜間景観を形成します。

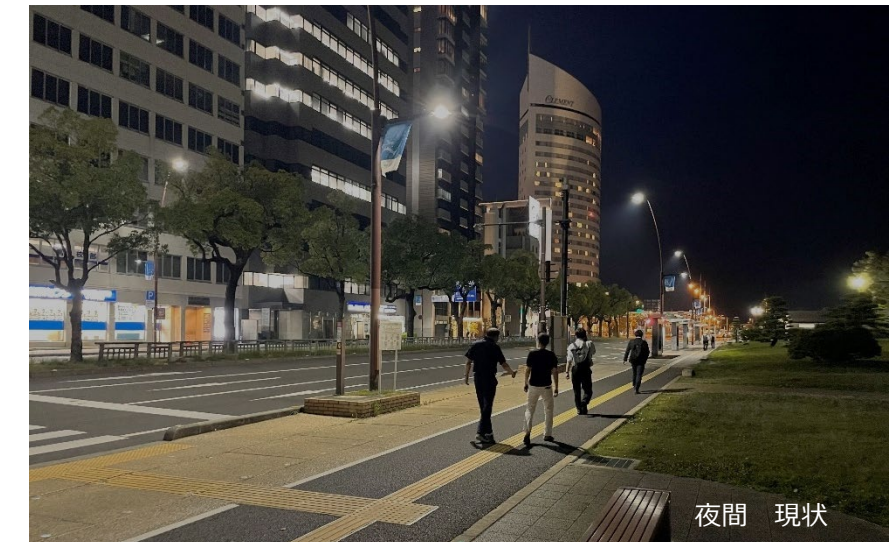
・また、民間建築物の夜間景観づくりへの参加により、メインストリートとしての一層の魅力の創出が可能となります。

<照明デザインのポイント>

- ・街路樹の連続的なライトアップにより、夜間でも緑が感じられ、回遊導線も演出
- ・暖色系の光で統一することにより、シンボルであるクスノキを引き立てるとともに、落ち着いた雰囲気 연출
- ・中央通りに隣接する高松城跡西側の緑の演出や、歩道路面へのスポットライト追加により、歩くのが楽しくなるメインストリートを演出



中央通り 高松城跡西側

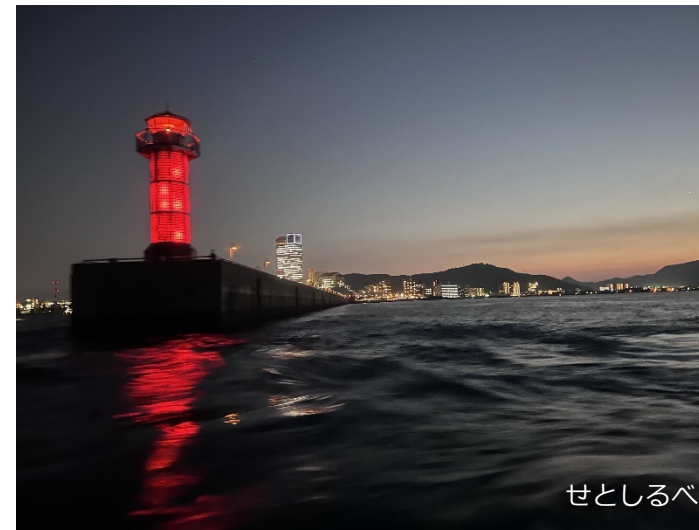


サンポート高松（玉藻防波堤）

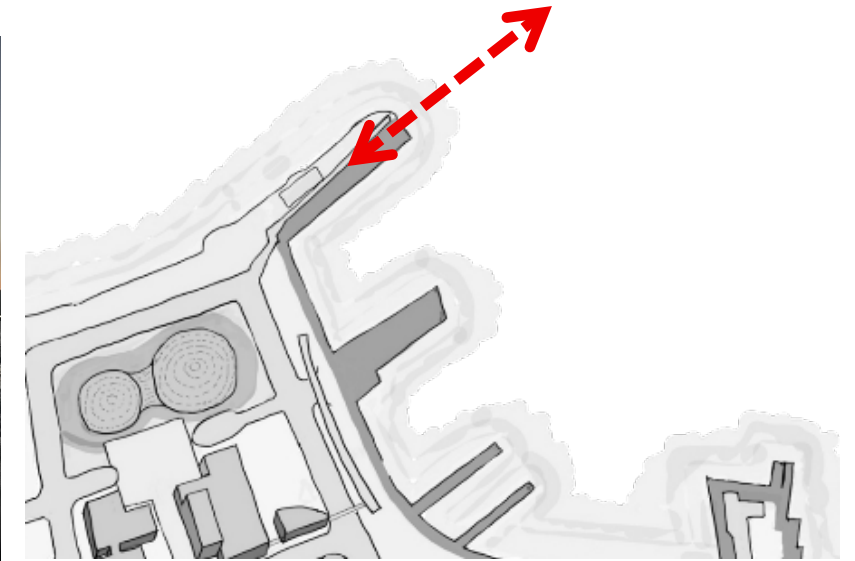
サンポート高松のランドマークの一つである「せとるべ」に続くこの防波堤は、瀬戸内海洋観光の玄関口である高松港の象徴であり、圧倒的な海上絶景夜景を形成できるコンテンツの一つです。

<照明デザインのポイント>

- ・既存街路灯の明るさの最適化とグレアの抑制や色温度の最適化、また、手すり照明を追加することにより、防波堤の長尺魅力を強調し、他に類の無い「高松港のシンボル夜景」を演出
- ・他都市に類の無い見渡す限りの「海上の光の道」は、アリーナ等でのイベント時において、滞在目的のコンテンツの一つとして位置付けれる



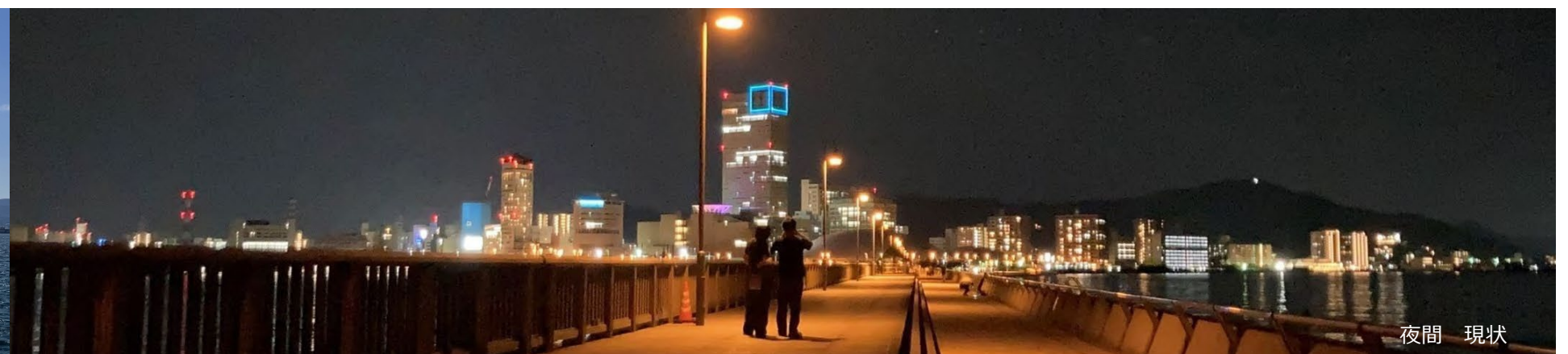
せとるべ



ケーススタディ



昼間 現状



夜間 現状

高松城跡（水城通り側）

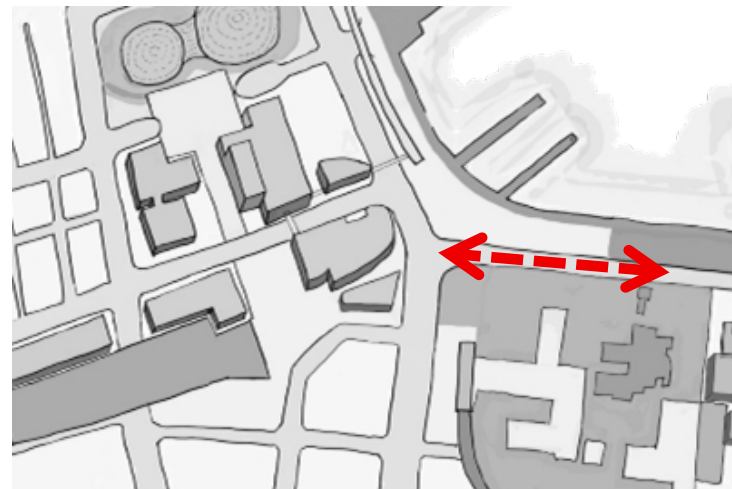
高松城跡は、本市の歴史文化の核として、海とのつながりを持つ日本三大水城の一つであり、海城としても知られる高松城の面影を感じさせるエリアとなっています。

この海城の石垣や樹木をはじめとする固有な資源を、シンボリックに照らし、歴史文化の核として風格と威厳が感じられる夜間景観を形成します。

また、特別日において、スペシャルカラーのライトアップにより、一層の魅力の創出が可能となります。

<照明デザインのポイント>

- ・石垣や、公園の外側から見える樹木を、暖色系の光で統一することにより、落ち着いた雰囲気を演出



昼間 現状

ケーススタディ



通常時 電球色



夜間 現状



特別日 ピンクリボンデー

3 魅力ある夜間景観づくりの進め方

高松市中心市街地の夜間景観のあり方について、「高松市美しいまちづくり・景観審議会」を開催し、様々な御意見を頂きながら、令和7年8月に「高松市中心市街地夜間景観ガイドライン（案）」を策定しました。

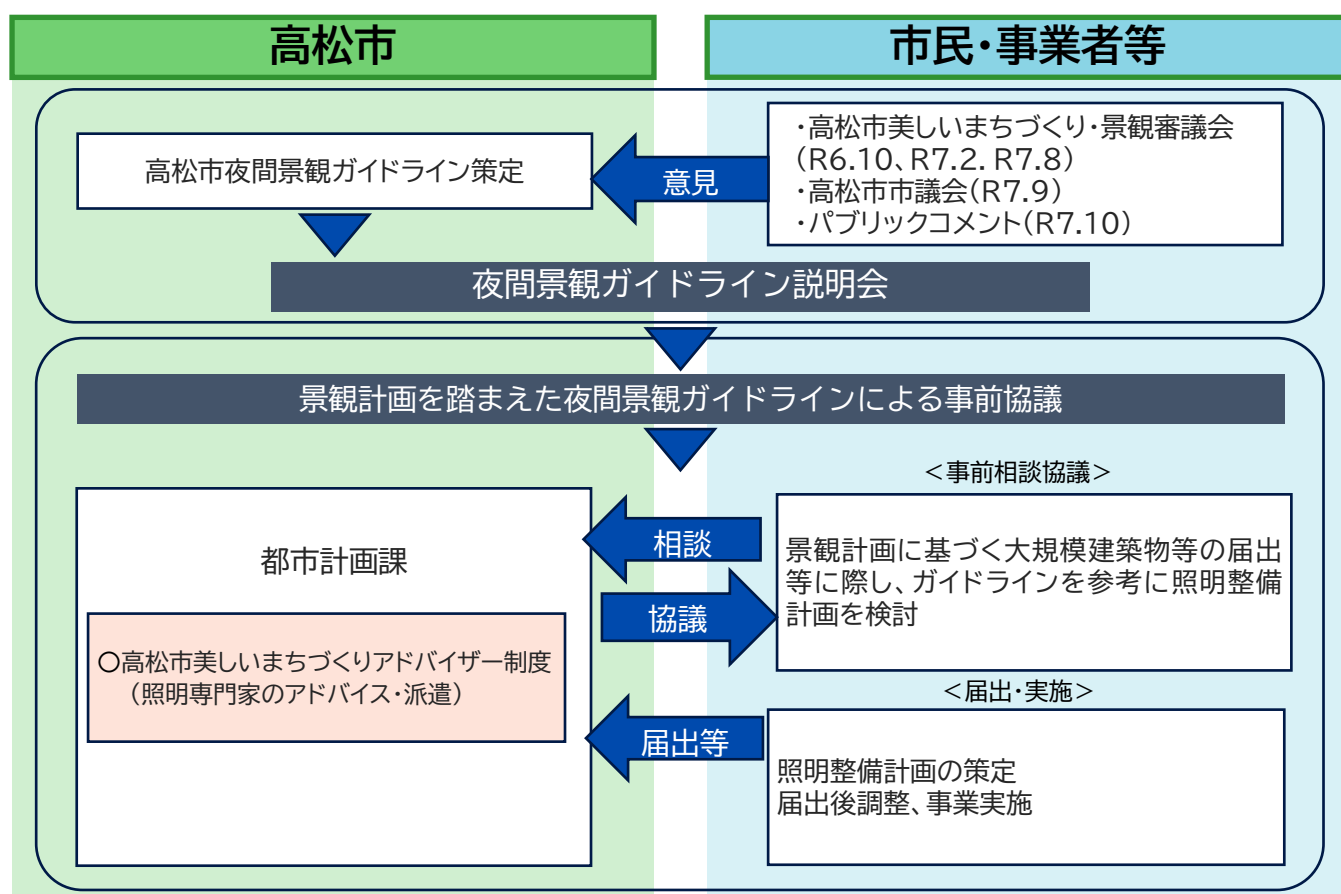
9月には「高松市議会」から、更に、10月には「パブリックコメント」を実施し、様々な立場の方からの御意見、御提案を頂き、この度、ガイドラインを取りまとめることができました。

まずは、このガイドラインの説明会を開催し、高松の夜間景観づくりをスタートさせます。

景観を形成するのは、街並みをつくるすべての施設です。

景観づくりはもちろんのこと、夜間景観づくりも、多様な主体が協働してはじめてまとまった「夜間景観」になります。

一つ一つの施設を魅力的なあかりで彩るため、本市では、このガイドラインの対象エリアである中心市街地におきまして、夜間景観の形成に取り組む事業者や地域団体に対し、「照明専門家のアドバイス・派遣」をする高松市美しいまちづくりアドバイザー制度がありますので、その際には、是非、御活用ください。



参考資料

ここでは、照明の計画をする際に関係する法律や各種基準等について紹介しています。各種基準等を踏まえた上で、照明を設置する場所・目的等に応じて、本ガイドラインで紹介した照明手法等を活用してください。

屋外照明全般

- ・ 照明学会 JIEG-010「歩行者の安全・安心のための屋外照明基準」
- ・ 照明学会 JIEG-011「屋外歩行者空間における LED 照明の不快グレアに関する指針」

道路照明

- ・ 国土交通省「道路照明施設設置基準」
- ・ 日本道路協会「道路照明施設設置基準・同解説」
- ・ 国土交通省「LED 道路・トンネル照明導入ガイドライン（案）」

防犯灯

- ・ 日本防犯設備協会「防犯灯の照度基準」
- ・ 日本防犯設備協会「防犯照明ガイド Vol.6」

光害

- ・ 環境省「光害対策ガイドライン」

屋外広告物

- ・ 屋外広告物法
- ・ 高松市屋外広告物条例